




シャンパンタワーならぬ、色水
グラスタワー。上から少しずつ
色を継ぎ足したりして、微妙な
色の違いや、混ざり具合を見つめ
ながら感嘆の声をあげています。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年6月11日
保育主任通信 松尾 誠史
page_16




そのような色水をたくさん用意して、プラコップを使って遊んでいます。2つ、3つを混ぜることは、これまで行ってきた子どもたちですが、今日は上下に重ねて積んで混色を楽しんでいます。上から下へと落ち広がる「動的な変化」がある遊びでした。



バランスを崩して倒れて
しまうこともあるのですが、
そっと注ごうとする姿も
ありました。

一人ひとりの慎重なまな
ざしや、手腕の動きもかっこ
いいですよ。



作った色水を傘袋に入れ
て結んでは、別の色を入れたり
しています。

色とりどりのカラーで
冷たいマフラーの完成です。
友達と協力して、持って支え
てあげたり、お互いのものを
認め合ったりしています。



ここ、ディズニーの世界ってことで、
ディズニータワーな

しょくへに
食紅(色をつけるための粉)を求めてスー
パーに行き、品出しのお兄さんに「食紅って
どこですか」と尋ねると、案内されたのが
“紅しょうが”のコーナーでした。「あの、
なんだか、ここじゃないような気が…」と私。



「ちょっと先生、この箱ダメ！全然あかんねんけど。もれるんやけど！」
 作った色水を入れるための箱として、「これもいいやん♪」と自ら選んだお気に入りの箱。すると、「すぐクシャクシャになる〜」とのこと…。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
 令和8年6月10日
 保育主任通信 松尾 誠史
 page_15



イメージはこんな感じ。



「かわいいからこれいいやん♪」



「全然あかんやん…。」

これも小さく大きな試行錯誤。ペットボトルはもちろん◎。カップももちろん◎。紙コップも◎。牛乳パックもなんと◎！そしてホイップクリームの箱は×！「なんでやねーん！」という、その“なんでやねん”こそが、学びの芽生えであります。ゴールや正解？あえて教えて差し上げません。杖などいらぬ。転びましょう！



いつも砂場で使ってる、みんなおなじみ雨どいを、台風来そうなある朝に、正規の使い方をしてみました。
 「なるほど〜。」「これいいやーん」
 「手え、洗えるやーん凸」



積み木や板でコースを作って、バランスを取って、運動遊びをしていました。すると、廃材コーナーから白い緩衝材をオバケに見立てて並べだします。

イメージがより豊かになって、ますます動きや遊びが盛り上がっていました。やっぱり子どもの世界観は本当に面白いものです。

引き渡し訓練のご協力もありがとうございました。子どもたちも真剣に避難訓練に取り組んでいます。






「台風が来る前に！」と、ジャガイモを収穫しに、畑へ出かけました。田上幼稚園の畑は市立幼稚園でも最大級の広さです（園庭も最大級です）。4・5歳児と一緒に掘り始めます。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
 令和8年6月5日
 保育主任通信 松尾 誠史
 page_14




力いっぱい茎を引っ張っていきます。ジャガイモだけ土に残るなんてこともしばしばあります。

土の中に隠れているジャガイモは目に見えません。それだけで宝探し感がありますね。



普段、自分が食べているものや、お店に並んでいるものがどのようにして土の中から収穫されるのかを体験することで、より“探究心”が育まれますね。



顔とどっちが大きいかなあ？



葉っぱにくっついてきたよー



並べたら園庭の真ん中からお部屋まで届くかなあ。

みんなとどっちが長いかな



収穫した日に調理もし、1つずつ塩でいただきました。太陽・土・水の大自然の恵みを、“五感”全てで味わいました。






朝から先生が作ってくれたふたこぶの山の間椅子を置き、すっぽりはまり、しっぽり遊ぶ3歳児。

日陰もあって心地よい。安心感のあるこの場所が、今日はお気に入りのようです。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年6月2日
保育主任通信 松尾 誠史
page_13




そうして子どもたちに存分に素材(砂・泥・土・水など)に触れてほしいからこそ、先生のこだわりがあります。「山は1つか2つか」「陰を作るならどの位置か」「土の湿り気はどうか」「園庭のどこに遊びがあるのがよいのか」「子どもの目線はどうか」などなど…。

王道やセオリーもあれば、先生それぞれのこだわりや考えもあります。保育者が十人十色だからこそ毎日の遊びが面白くなると、我々は考えています。

そして、私たちの失敗や、子どもの予想外の発想、大人の範疇に収まらない視点は、また毎日勉強させてもらえるものがあります。つまり、私たちは毎日、子どもから学ばせてもらっているわけです。感謝。



【3歳児の色水遊びでの場面】

様々な形の容器に汲み、移し替えています。

ただ水の入れ替えを楽しんでいるだけのようにも思えますが、つもりや見立てをする中で、イメージ豊かに遊ぶ言葉も聞こえます。

また、容器の形状、太さ・細さ、深さ・浅さ、透明・不透明も様々な用意されています。

例えば、[平たいもの]と[細く背の高いもの]ではどちらが多く入っているのかという試行は、見た目と自分が手に持った感覚〈重量感〉で学ぶこととなります。



「形が変わっても量は同じ」。これは心理学者のジャン・ピアジェが提唱した「量の保存の概念」というものです。ちょっとしたそんな小難しい話も、3歳児から5歳児まで、日々、遊びながら心と体に積み重ねていっています。

新学期が始まって2か月が過ぎました。子どもたちは4月からたった2か月だけでも、大きく成長しているところがあると私は感じています。

私たち大人も一人一人に寄り添いながら、成長しなければ…。老いに負けず、がんばります！





Peppie's Pages

薫風吹き抜ける五月は、暦の上でも爽やかな初夏の訪れを感じる季節ですね。

子どもたちは砂・泥・水・泡や自然などに存分に触れて楽しんでいます。

大阪市立田上幼稚園
令和8年 5月 29日
保育主任通信 松尾 誠史
page_12



「そういった感触を味わってほしい」と先生が絶妙な状態にトロトロの泥を作っている様子です。ひょっとしたらつくりながら先生も心地よさを味わっていたのでは？

さて、裸足になって遊んでいますが足裏で土・草や凹凸などの様々な感触や冷暖を味わうことが、五感を活性化させます。

また、手は「突き出た脳」とも呼ばれ、手指を動かしたり、指先や手のひらで感じたことが、成長に大きく影響すると昔から言われています。ツルツルした画面よりザラザラした砂場ということでしょうか。

何より今日も、子どもたちの表情は生き生きしているように見えます。



水が少なくなってきたから、
こうしてみた！
すくいやすいでしょ?!

私も水が少なくなってきたのは分かっていたのですが、いつかこうしてくれるかなと、あえて水を足さないでおきました。



遊びで使った園庭の金柑(きんかん)は、中から種が出てきました。「これ植えて、大きくなってできたキンカン、また使うわ」と種をまいてみた4歳児です。楽しみだね。





STAR (Sports Training Association of Rhythm) の^{だいたいどうゆう}大道遊先生に来ていただき、全学年がストレッチ、ダンス、そしてリズムに合わせて体を動かすリズムジャンプを楽しみました。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年 5月 26日
保育主任通信 松尾 誠史
page_11



先生のまねっこ
してみてください！

約束は3つ（線を踏まずに跳び進むこと、先生の「せーの」に合わせてスタートすること、リズムに合わせてジャンプすること）です。前に進んでいくので、少し前傾姿勢になることや、つま先でのジャンプなどが大切です。

子どもたちは、楽しい音楽と雰囲気の中で繰り返し経験していきました。

そんな中、手拍子をしながら応援する子もいたのです。友達や先生のを見ることで、真似ることも自分のやっている時間以外で大事にしたいことですね。



手を“頭”“肩”へと動かしたり、足をクロスさせたり、片足ジャンプを入れたり、少しずつ複雑に組み合わせていくと、さらに面白いのです。

憧れ⇒意欲⇒挑戦⇒葛藤⇒達成感⇒周りからの認め⇒反復⇒次の目標設定…
といったように、子どもも大人もレベルアップしていけます。

【幼稚園いらっしゃいDAY】のイベント（7月11日(土)）でも、リズムジャンプを行います。皆さんもよければ体験して下さい。（大道先生はいらっしゃいませんが、リズムジャンプディフューザー資格のある松尾が担当いたします。）



ゴールまで行くと、必ず大道遊先生がハイタッチしてくれます！



感嘆の声と表情の5歳児と、サムアップでキメポーズの4歳児。今日は2人が中心となった砂場のドラマがありました。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年 5月 25日
保育主任通信 松尾 誠史
page_10



まかせよう！
掘るぞー！

砂場に集まった5歳児のあじさい組と、裸足で水たまりに入って掘削していく4歳児。今日はトンネルを作っていく模様です。



水が混ざって柔らかくなった砂をかきだします。

一方から掘っていくだけでは難しいので、どうしたらいいか5歳児には作戦があるそうです。それを4歳児に伝えながらトンネルを掘っています。

その作戦とは…。

だんだん
崩れてくる。

下の方だけ
掘るのがいいね。



スコップの反対側からは、細長いパイプを差してぐりぐりと回転させながら、ねじ込んでいきます。胸に付けて体全体で押し進めていきます。



水たまり側からは中腰になって、かがみながら、スコップの先を細かく動かして砂をかきだしていきます。かれこれ20分ほど続けています。



そして、やっとつながりました。時間はかかりましたが、かかった分だけ喜びも大きいようで、何度もものぞいてみたり、トンネルの下で手と手をつないだりしていました。

願いをもって遊ぶ姿から、問題に向き合う力、友達と相談する力が育ってきているのを感じました。また、最後まであきらめず、スコップで根気よく掘り進めていく姿からは、粘り強さも感じました。達成感や満足感もあったことと思います。さてこの後、不意にトンネルの上に乗ってしまったようで崩れてしまいました。まあ、いいか、明日があるさ。



4・5歳児は田上小学校に散歩に行きました。少し遠い道のりも、交通安全に気をつけながら、4歳児は先輩に歩き方を指南され、たどり着くことができました。出迎えてくれたのは、幼小中担当の森田知代先生。幼稚園の活動にとてご理解をいただいています。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年 5月 14日
保育主任通信 松尾 誠史
page_09



みなさんこんにちは。
いらっやい。

5歳児は校舎内の探検をさせてもらいました。目的地は校長先生へのごあいさつ。少し段差のある階段や、長く入り組んだ廊下を通り、森田誠校長先生に謁見することができました。



森田校長先生「それじゃあどうぞみなさん、お座りください…。」
山田・松尾の心の声「(ええーっ、、、いいんですかあ?)」
子どもたち「やったー！」
山田・松尾「(今日だけ特別やで)」
森田校長先生からは、たくさん遊んで小学校について聞きたいことがあったらまた教えてねと伝えていただきました。

うわー！ めっちゃ
ふかふかやー！ 跳ねるー！



清々しい天候のもと、幼稚園よりも少し大きめの、小学校の校庭の遊具で存分に遊んできました。まだ、体格的にできないものもあります。実際に訪れて少し過ごしてみることで、小学生への憧れの気持ちも抱いてほしいですね。



【がんばりまめ】
ちょうど小学校のうんていをしているときに、肉刺がつぶれてしまった。「これは“がんばりまめ”だね」と皆で言っていました。努力の勲章ですし、自信や心身の成長でもありますよね。また、いっぱい楽しんでいきましょう！





「いっぱいグラム！いっぱいグラム！」
 「…なにになに…??」
 誘われるままについていくと、砂と泥で
 心地よさを存分に味わおうとしている
 3歳児の子たちがいました。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
 令和8年 5月 14日
 保育主任通信 松尾 誠史
 page_08



砂山の上からバケツを大胆にひっくり返すと、土が削られて、
 川になって勢いよく水が流れていきます。その様子も、流れていく
 先を楽しみにすることも魅力的なようです。



「ハイみなさん準備はいいですかー？」 「はい！」 「それー！」 「きゃー！」

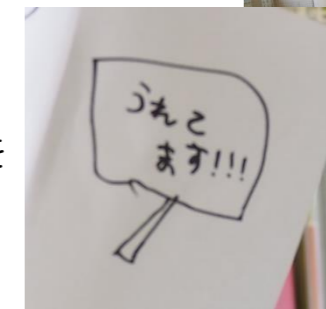
次は自分たちが川に入って、先生に水を流してもらい、全身で
 冷たさを感じていました。そうそう、これが楽しいんだよね！



5歳児あじさい組の考える
 【スナップエンドウ作戦 全4回】
 ①収穫したものをすじ取りをして
 4・5歳児で食べる。(調理・食育)
 ②3・4歳児に配る。(数量への意識
 などがありました)



③4歳児と一緒に収穫する。
 (ペア活動への意識が向上しました)
 ④お店屋さんをして、チケットを
 配って買いに来てもらう。
 (社会性の育ちなどが見られました)



「みんな、忘れず買いに来てねー」

自分たちが愛情をこめて育ててきたものだからこそ、愛着が生まれ、美味しさ
 も増し、より大切にしようとする。そして誰かに「分かってほしい」「共有したい」
 という気持ちも生まれますね。



一つの作物から、ここまで活動を展開
 させていったクラスをなかなか見たことが
 ありません。

何より“みんなのために”“あなたのため
 に”力を発揮し、喜ばそうとする5歳児の
 姿が本当にかっこいいと思っています。



「じゃこます!!!」

「おまめくたせー。」



「いらっしゃいませー」



紫色のパンジーでつくっていた色水を“ソーダ”のようにしたくって、手洗い用の石鹸を入れてみた子ども。すると、ソーダみたいになったのはいいけれど、「紫色のジュースが緑になった！」と驚いている場面がありました。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年 5月 11日
保育主任通信 松尾 誠史
page_07



実は花に含まれているアントシアニンという色素は混ぜる液体の【酸性⇄アルカリ性】の性質（pH）によって色が変わります。ただ、幼児の遊びの中でそこまで真面目に伝えすぎるのもナンセンスだと私は思っているの、「えーっ?」「なんでやろなあ・・・」

「不思議だねー」と答えを与えすぎないように関わっています。そこから子どもが仮説を立てて試行錯誤したり、イメージを膨らませてファンタジーの世界観をもつのも面白い活動になるだろうなと思っています。

明日もどんなことが起こるか楽しみです。

マットとフープでつくられた揺れる船に乗って、見えた景色を撮影している3歳児。手にしているのは先生が即興でつくってくれた“スマホ”あまりに楽しそうすぎたのでカメラを向けると、逆に一斉に撮られてしまいました。本物みたいなごっこ遊びや、友達や先生と同じものを持って、狭くても同じ空間で楽しむことが嬉しいのですね。



「たべたいー!」



毎日の些細なこういった場面から、子どもたちの“自己効力感”や“自尊感情”、また、「感謝」といった気持ちが非認知能力とともに育まれていくといいなと願っています。

お弁当の風呂敷包みのやり方を伝え合っています。
〈先生→子ども〉の教える関係性も必要ですが、
〈子ども→子ども〉
〈子ども⇄子ども〉という関係性も大切にしたいですね。



「僕は、今日も自分でできたよ!」

5歳児がスナップエンドウを収穫しました。保育室に並べて、いくつ取れたか数えているところですが、そこへ4歳児も入ってきました。



うらやましそうに豆を見つめ、「食べたいなあ」という4歳児の希望に快く応えてくれた5歳児の子どもたちは、“すじとり”で調理にも参加してくれて、昼食時には皆で美味しく食べることができました。

種まき、水やり、草引きを経て、収穫、実食と栽培活動の一連は長いですが、子どもたちの心に大きく実る取り組みになっています。



「おにぎりにトッピングしてみました!」

「よかったら、たべる?」



カラフルな帽子が並び行く姿はまるで仲良く歩く金平糖のよう。

3学年で一緒にサンシャイン公園に散歩に行きました。春の自然も深みを増し、草花も前回より少し豊かになっています。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園

令和8年 5月 1日

保育主任通信 松尾 誠史

page_06



「ぷーぷー」「すごいね！音が出たね！」

豆ひとつでも個体差があります。見て触って選ぶことから遊びが始まります。作ってみて破れたり、音がかすれたり失敗することを繰り返しながら進めていきます。これが折れない心「レジリエンス」を育てていくひとつとなります。

非認知能力を高めていくためにも、自然に関わる遊びは幼児期に大切です。



草むらの一角から、「プ〜ッ」「ピーッ」という音が聞こえてきます。カラスノエンドウ（ピーピー豆）で作った笛が奏でている音でした。



また、保育者が子どもたちに見せているのは、単なる自然での遊び方を伝えたのではなく、

「工夫すれば僕らの世界はこんなに面白くなる」というマインドセットそのものです。

与えられた課題をこなすだけでなく、自らが遊びや面白いことを創り出していくことが大切です。

さて、手前味噌ではありますが田上幼稚園には自然遊びが大好きな保育者がいます。まさに伝道師として作り方から鳴らし方のコツまで、ポイントを押さえてアドバイスしています。

子どもの気持ちに寄り添いながら、成功体験を積み重ねつつ、自然遊びの魅力を子どもたちに伝えています。



このあと、私もやったことのないスタイルの草笛を教えてもらいました。初めは全然鳴らなかったのですが、「先生、もう少し詳しく！手の裏側はどうなってるん??」としつこく懇願して教えを乞い、やっと鳴らすことができました。今度は誰かに伝えてみたいな。





園庭の色とりどりの草花で色水をつくってみた4歳児。ジュースだそうで、「ぶどう」「薄ブルーベリー」「みかん」「タイムアップル」「マンゴー」と、それぞれに名前を付けて紹介してくれました。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年4月30日
保育主任通信 松尾 誠史
page_05



【名付けのセンス】

微妙な色や濃さの違いや、グラスの中に残された花びらなどの浮遊しているものの特徴から、イメージしたことを言葉にして表現していることに驚かされました。

グラスの大きさに比べて、中身の量はそれぞれ少量ではあるのですが、ひとつひとつをこだわってつくろうとしたのが伝わってきます。

また「薄(うす)ブルーベリー」だなんて、自分だけが付けた特別な名前、本当に素敵ですね。自分のこれまでの経験や見聞きしたことから、イメージする力や名付ける力はこの頃から育まれているのですね。

この日、一日限定のレアなジュースだったのかもしれませんが。



【わたしとあなたとみんなのために】

雨上がりの朝、うんていが濡れていたのので、自分たちがする前に拭こうとしている子どもたち。どうしても高さが届かないところがあるので、砂場にあるビールケースを持ってくることを思いつきました。



この朝は、安全面から濡れたまま使用させないように見守りながらも、あえて大人が全て整えきってしまわないようにしていました。

自分たちの遊び場を自分たちで整える。

そこには、どうしてもこの遊び(うんてい)をやりたいという強い思いもあるでしょう。また同時に、誰かのために役に立つことをしようという思いやりの気持ちもあることと思います

子どもたちが抱いているそのような自己効力感につながる気持ちを、日々どんどん膨らませていきたいなど、職員一同考えています。

今日も濡れてるわー！





雨のある日、遊戯室で巧技台（台やはしごなどを組み合わせた遊具）やマットを繰り返し渡っていく子どもたち。

今日の遊具設置の高さ（低さ）へ込めた保育者の願いとねらいは…。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年4月27日
保育主任通信 松尾 誠史
page_04



運動を伴う活動を通して、子どもたちには何より「体を動かすことをずっと好きでいてほしい」と願っています。

繰り返し取り組もうとするきっかけの一つとして、すべての遊具の高さを一番低くしています。

【身体感覚とバランス能力の基礎】

この時期の幼児は自分の体の大きさや「どのように手足を動かせば落ちないか」という“固有受容感”（体の位置や力の入れ具合の感覚）を養っている真っ最中です。

前後左右のバランス感覚を体験・修正しながら身に付けたり、手足の協応を学んでいくものと考えています。



「ガオー」と恐竜になって進んでいます。大好きなイメージとともに遊ぶとますます楽しいですね。

【「高さ」への適応と空間認知】

低い設定だからこそ、安心して「空間」や「幅」を把握することができます。

次の足場がどこにあるのかを目で捉えやすく、慎重さと大胆さの両方を身に付けていきます。

そういったことを積み重ねながら、挑戦意欲の土台作りをしていくことができると考えて設置しています。



上の写真で渡っているのは、ホームセンターの資材売り場に400円ほどで売られている2×4（ツーバイフォー）の板です。低い高さは足をつくことへの怖れを最小限に抑えて、再挑戦のしやすさを生んでくれます。「もう1回」という自発的な意欲を促すものと考え、作製しています。



異年齢の活動の中では、困っている友達を見かけて、「難しいのかな？」「怖いのかな？」「手伝った方がいいのかな？」と、心を寄せて関わる4歳児の姿も見られます。

相手の少し後ろを歩いてあげているところに、思いやりの気持ちが感じられますね。



いっぱい入れたい兄さんたちといっぱい出したい弟…。

道路の縁石の上を歩こうとしたり、横断歩道の白いところだけ跳んでみたり、タイルのマス目を桂馬跳びに進もうとしたり…、そんなところから生まれるものもあります。ですので、そんな遊びをぜひ幼稚園で大いに取り組んでほしいと願っています。



大きなペットボトルにヨーグルトの
カップで水をすくってたくさん入れたい
3 歳児の子。ただ、このペットボトル、
お醤油用で、フタの形状が特殊。入り口が
とっても狭いんです。ドバドバと漏れて
しまいます。しばらく試し続けますが…。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年4月23日
保育主任通信 松尾 誠史
page_03



そこで考えつきました。まずヨー
グルトのカップから、乳酸菌飲料の
容器に水を移し替えます。

そして、その容器でそうっとペッ
トボトルに注いでいきます。口が
狭いので注ぎやすい。よく考えた
ものですね。

工程が1つ増えることになるので
すが、「どうすればうまくいくのか」
をよく考え、観察力や論理的思考が
現れていました。

自らこの手法にたどり着くなん
て、本当にすごいですね。

偶然近くを通った5歳児の実姉に
「こんな風にしててすごいよね？す
ごくない？」と聞いてみると、「まあ、
まあまあやな」と応えてくれました。



5 歳児が遊びに使いたいお花をそうっと
摘んでいます。美しく赤い花びらを広げる
アネモネがあまりにも可憐でかわいいので
「本当にいいの？」と何度も先生に尋ねるの
でした。

遊びに使うとはいえ、命ある花を摘むこと
に勇気をもって、覚悟を感じたのでしょう。

摘む瞬間、心に浮かんだ言葉は「ありがとう」でしょうか、「ごめんね」でしょ
うか。生き物や植物、命あるものへの優しい心を育てていきたいですね。



遊びで濡れてしまった靴の中に新聞
紙を詰めています。「こうすると速く
乾くんだって」と先生に教わり、自分
の靴だけでなく、友達の分も詰めて
くれています。

そんな優しいあなたのことを、今日
もおひさまは見てくれていますよ。



ペダルローラーに乗って、縦に並び、
アヒルの親子みたいになっていたのが
何ともかわいかったので、思わず撮っ
てしまいました。

このあと、前後でつながりながら
進もうと試みていました。しかし、方
向性の違いから、だんだんとバラバラ
になっていく家族…。それでもとても
楽しそうでした。



「なんのあしあとかなー。」「ワニかな？クマかな？」
正解・不正解のないファンタジーの世界も面白いですね。



幼稚園での生活・遊びが始まって1週間。菜の花色の帽子の3歳児も園庭で砂遊びを楽しんでいます。

容器の水の中に砂を入れてみたり、グルグルとかき混ぜてみたりしています。

大津市立田上幼稚園

令和8年 4月 22日

保育主任通信 松尾 誠史

page_02

Peppie's Pages



「(このスコップ、入れてみたらどうなるのかな?)」

黙々とモノと向き合い、試しながら繰り返すことは、「主体的な学び」や「非認知能力」が育まれているとても貴重な瞬間です。

※非認知能力…IQ・テストのような数値や点数で測ることのできない力。いわば「心の力」です。

子どもたちがこうして遊びに没頭しているとき、深い集中力が養われます。また、砂のざらざら感や、泥のぬるぬる感といった手指から得られる冷たさや感覚もまた、五感を刺激しています。

そしてこのしゃがみ続ける姿勢は体幹や足腰の強化にもつながっています。やっぱり遊ぶって大事ですね。



園庭の菜の花を手を持たせてもらってこの笑顔((´▽`))。田上地域で昔から大切にされている菜の花は、見るもよし、育てるもよし、食べるもよしですね。

「自分が中学生の頃は、菜種からとれる油を自転車に乗せて売りに行ってたわ」と地域の方に聞いたことがあります。

こうして実際に、この鮮やかな黄色い花に触れたり、柔らかい感触を心に留めることが、自然への畏敬の念を育てていくことになるのでしょうか。



保護者の皆様から寄贈いただいた遊具で、子どもたちは園庭でのびのびと遊んでいます。本当にありがとうございます。

今年だけでなく来年も再来年も、おそらくこの汽車のように、数十年子どもに愛されるように、大切に使用させていただきます。

今後ともご支援をどうぞよろしくお願いいたします。





田上幼稚園のだっ広い園庭で、朝から素手で(!)トンボを捕まえた5歳児の子どもたち。
この一匹のトンボに興味関心をもち、心を寄せるひとときがありました。

Peppie's Pages

大津市立田上幼稚園
令和8年4月21日
保育主任通信 松尾 誠史
page_01



最後は「弱っているから…」とこの日のうちに逃がしてあげたそうです。

小さな生き物に関心をもち、どうすればトンボが嬉しいか、心地よいかを考えていることに心打たれます。

そして小さなトンボを、自分たちと同じ尊い命あるものとして関わろうとしている姿がとても美しく思えました。

こちらの通信では保育主任として全園児のpeppy(元気いっぱい)な姿をつづっていきます。お付き合いどうぞよろしくお願いいたします。



「住んでた草むらと同じにしてあげたいから、そのへんの草をいっぱい取ってきたし、入れてあげたいな。フタを開けたら逃げちゃうんだけど」

「幼稚園の砂を先に入れてあげよう。慣れてるやろー。」

「なあなあ、トンボって何食べるんやろう」

「ってというか何て言うトンボなんだ？オニヤンマならわかるけど…そうだ、図鑑を取りに行こう。」



はー！

今日はここを右に行くと、公園まで行くからね。



あっ、違うわ。ちよっとまっすぐ。



こっち、こっち。はい、行こう。

この後、大人が何も言わなくても、年長児のみんなは車道側を歩き、手をつないで4歳児を守ってくれました。

咄嗟の判断でこうして《主体的に》よりよい行動が生まれるのは、日頃のご家庭での問いかけや、様々な経験の積み重ねのおかげです。ありがとうございます。

サンシャイン公園に行きました

5歳児と4歳児が手をつないでいくのですが、出発前、園庭に手をつないで並ぶ際、子どもたちにあらかじめ左右の位置をあえて決めておきませんでした。

すると、歩道に出た後、咄嗟に「車道側」に場所を代わってあげる姿が年長児に見られました。

「車道=危ない方」という知識だけでなく「私が動けば、より安全になる」という瞬時の判断力や応用力が危険予測とともに現れています。

これまでは「自分が見えている世界」が主だったでしょう。しかし、5歳児は「相手がどのような状態か」と自分以外の視点で状況を客観的に捉えられるまでに成長しています。

